

11日目 7月26日

会 場: 松江市営野球場

第1試合	～準決勝～ (9回サヨナラ)																			
T E A M	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	R	H	E		
開 星	0	0	0	1	0	0	0	0	1							2	6	1		
飯 南	0	1	0	0	0	0	0	0	2x							3	5	1		
(投手-捕手)																				
・ (開)	曾田→百合澤 - 蓮池																			
・ (飯)	三上 - 原																			
(長 打)	(二塁打)						(三塁打)						(本塁打)							
・ (開)	山西						前井出													
・ (飯)	三上																			
(審判) [球審]	藤原周			[一塁] 清水繁			[二塁] 宮野			[三塁] 杉原										
(チーム成績)																				
チーム	打	安	点	二	三	本	振	四	犠	盗	残	併	守	備	失	暴	ボ	逸	打	妨
(開)	34	6	1	1	1	0	5	1	0	0	5	1			1	1	0	0	0	0
(飯)	35	5	2	1	0	0	8	5	2	0	6	1			1	0	0	0	0	0

「飯南が劇的サヨナラ、創部初の決勝へ」

大会11日目は準決勝2試合が行われた。準決勝第1試合は開星と飯南の対決となった。飯南はエース三上、開星は曾田の両先発で、開星はここまでと同じく途中で百合澤に継投した。

試合は2回裏、飯南は先頭の4番三上の中越の2塁打と四球で無死満塁の好機を得る。1死満塁から8番岩本が中堅手への犠飛を放ち1点先制する。しかし、捕手が三塁手へ転送し3塁を狙う2塁走者を刺し最少失点に防いだ。すると開星は4回表、連打と野選で無死満塁とし、5番小田原がレフトへの適時打を放ち同点に追いつく。なおも、無死満塁の好機だったが本塁併殺と内野ゴロに倒れ逆転できない。飯南は5回裏に1死2塁を作るも、回の途中で継投した開星2番手の百合澤が連続三振に取り得点を許さない。開星は6回表に3番前井出の中越3塁打で1死3塁の好機を得るが、飯南の三上が後続を断ち、殆ど走者の出ない投手戦が続く。

試合が大きく動いたのは9回表、開星は四球にエンドランを絡め2死2塁とし、6番蓮池がレフトへの安打を放つ。これを相手左翼手が後逸する間に2塁走者が生還し、勝ち越しに成功する。なおも2死3塁と好機が続き、7番金森が直球を捉えるも、遊撃手正面のライナーとなり追加点は奪えなかった。

すると、直後の9回裏、飯南は四球と安打で1死1・3塁とし、5番原がスクイズを試み、成功させたかに見えたが身体に当たって内野に転がっておりファールとなると、内野ゴロで3塁走者が本塁クロスプレーでアウトとなり勝負あったかに見えた。しかし、6番川島愁が四球を選び2死満塁とすると、7番大坂の打球が遊撃手に飛び、これが相手遊撃手の失策を招き土壇場で同点に追いつく。なおも2死満塁で8番岩本が直球を打つと、打球は三遊間を破るサヨナラ安打となり、飯南が大逆転で創部初の決勝進出を決めた。また、開星が敗れたことで、2004年の86回大会以来18年ぶりの決勝戦が公立校対決となることが決まった。

